〔 資料紹介 〕

千葉市加曽利貝塚西平坦部採集の遺物について

－房総半島西部における縄文時代晩期の研究にむけて－

田　中　英　世

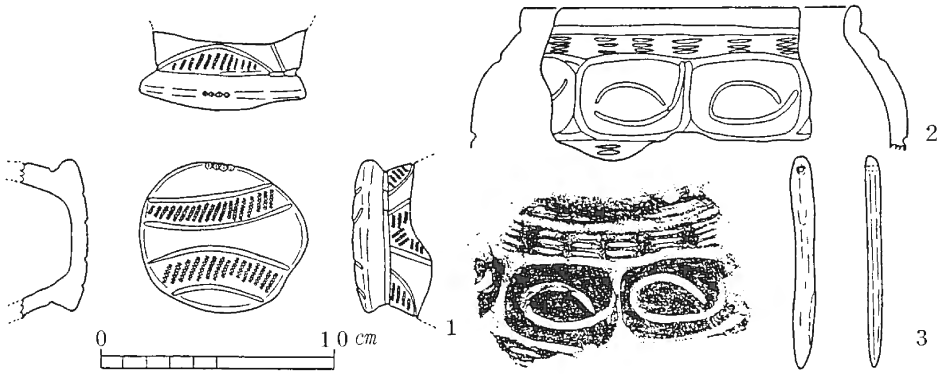
はじめに

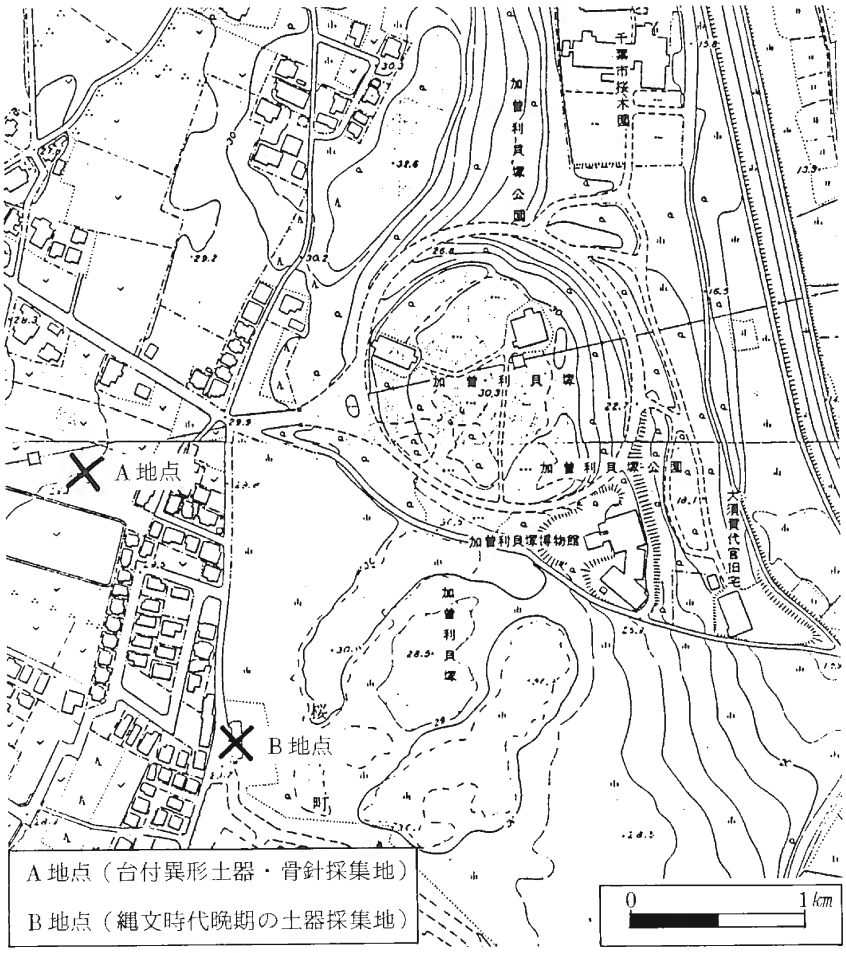
ここに紹介する資料は昭和４８年の加曽利貝塚東傾斜面発掘調査に参加した際に、南貝塚の西側平坦部の畑地より採集した土器および骨角器である。土器は千葉市内でも数少ない縄文時代晩期のものを含んでおり、ここで千葉市周辺の縄文時代晩期の資料集成を計ると共に今後の研究の基礎資料としたい。

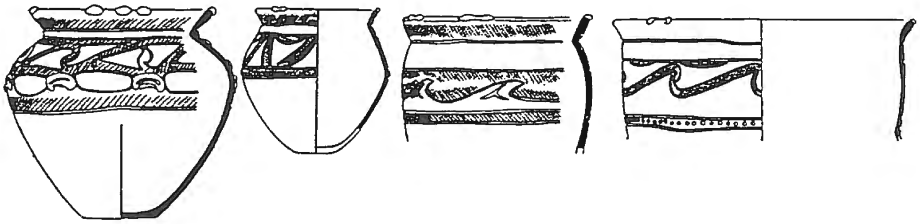
1. 採集遺物の概要（第１図）

加曽利貝塚は千葉市のほぼ中央に位置し、都川に開折する古山支谷の西側、標高２０～３４ｍの舌状台地上に南北２つの貝塚が展開する。過去数度に亘る調査により縄文時代前期から集落が営なまれていることが確認されている。遺物を採集した西平坦部は、従来の調査の中心をなした貝層の中心部および東側とは異なり、北貝塚の西側に３ケ所の地点貝塚が確認されているのみで詳細は不明であった。

第１図１は土器の底部と思われるもので、径7.2㎝、現存高3.5㎝を測る。底面には円孤状のＬＲの磨消縄文を施しており縁辺部の１部に刺突を加えている。体部にも同様な孤状の磨消縄文を施しており、内面には底部と体部の接合痕を明確に残している。底面に文様を有している点や形状から異形台付土器の一部とも考えられる。加曽利ＢⅡ式土器であり南貝塚西平坦部採集。第１図２は胴部が張る器形を呈する縄文時代晩期の土器であり、口径１４㎝を測る。２本の沈線で区切った頸部文様帯内にはヘラ先状工具による短沈線が３段に亘り整然と施され、枠状文を連結した内にα状の沈線を施し、その下段には更に頸部文様帯と同じ文様を施している。器形および文様描出方法より埼玉県地方の安行Ⅲｂ式土器に類例が求められるが枠状文が連結する例は極めて少ない（註１）。採集した地点は、南貝塚外縁部に隣接して当時存在した㈱東洋プレハブ工場用地内の重機掘削面で、表土層下の黒褐色土より出土したもので他に遺物の出土はない。第１図３は頂部に一孔を有する骨針の完形品で現存長９㎝、幅0.6㎝を計る。南貝塚西平坦部採集。以上が採集遺物の概要であるが他に石鏃６点を採集している。近年西平坦部の開発は著しく、それに伴って数度に亘る緊急調査が行なわれているものの遺構の主体をなすのは縄文時代中期の加曽利Ｅ式期で、 晩期の土器の検出例はなく今回発見された包合層は極めて極地的なものと思われる（註２）。加曽利貝塚からは安行Ⅲａ式～前浦式の縄文時代晩期の土器が出土しており、







第１図　採集遺物と採集地点および加曽利南貝塚出土の土器

南貝塚内側東地点より安行Ⅲｂ式期の住居址が１軒確認されている他、南貝塚中央部および北側外縁部、東側の台地縁辺部の４地点から晩期の包含層が発見されている。今回の遺物の発見により小規模なものとはいえ縄文時代晩期の包含層が貝層外縁部で確認されたのは重要である。

2. 千葉市周辺における縄文時代晩期の遺跡

千葉市内の縄文時代晩期の遺跡は僅かに２９遺跡が確認されているのみで、公表されている資料は更に少ない。以下流域別に遺跡のあり方をみていきたい（第２図・第１表）。

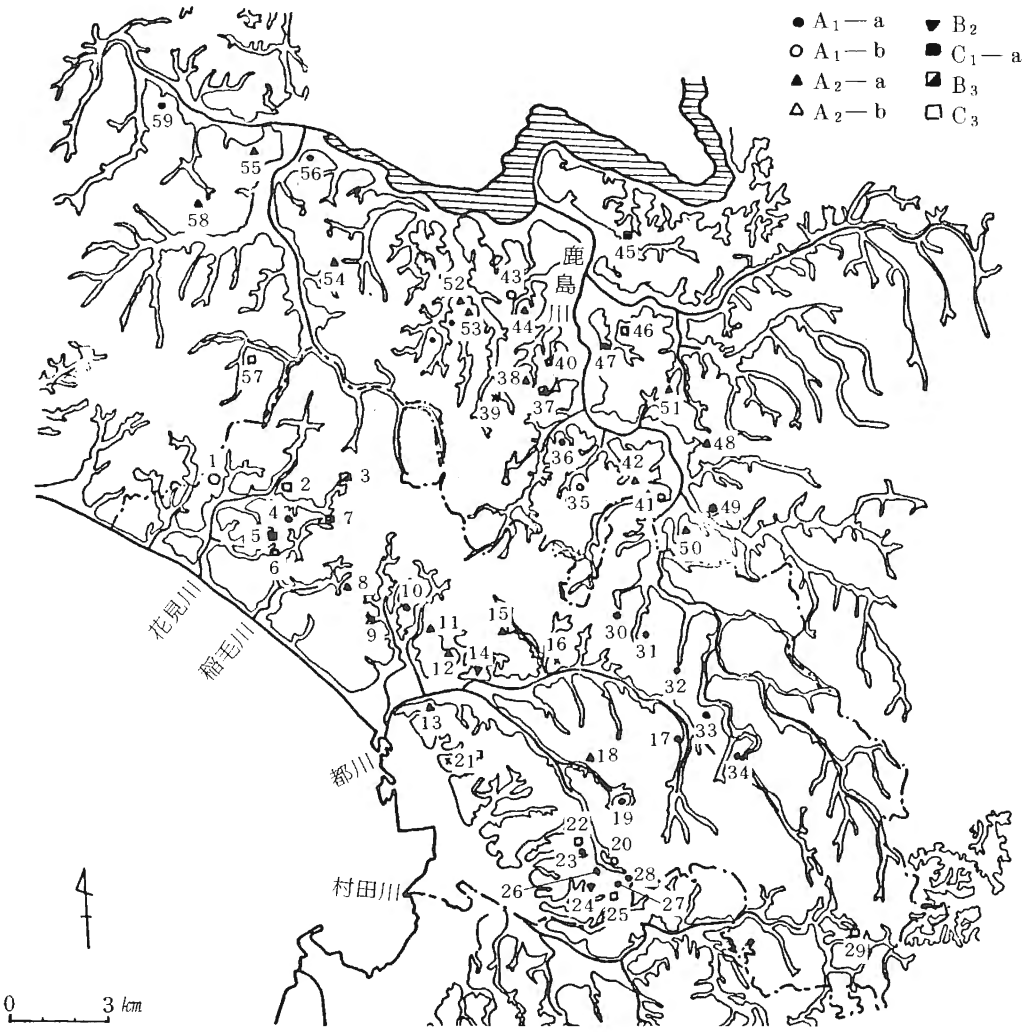
花見川・稲毛川流域―千葉市の北側を占める地域で、花見川流域では西門原遺跡・新堀遺跡・子和清水遺跡・犢橋貝塚・蓑輪遺跡が、稲毛川流域では鳥喰台遺跡・房地遺跡・園生貝塚の各遺跡が存在する。犢橋貝塚・園生貝塚はいずれも後期からの大貝塚で、過去数度の調査が行なわれているが詳細な報告はなされておらず全貌は捉えられていない。犢橋貝塚では昭和３１年に明治大学によって調査されたＭ地点から、大洞Ｃ1式土器を伴う姥山Ⅱ式・Ⅲ式土器を主体とする純貝層が発見されており、園生貝塚でも安行Ⅱ式・Ⅲａ式土器を主体とする貝層上に安行Ⅲｂ式土器を伴う混土貝層が発見されている（註３）。子和清水遺跡は県内でも数少ない晩期終末の遺跡で、浮線網状文土器を主体とする遺物集中地点が２地点発見されており、これに伴う土偶・独鈷石等も出土しているが石器の組成は貧弱で新しい要素を含んだものはみられない（註４）。房地遺跡も浮線網状文土器の集中地点が発見されており、御代田式土器も出土している（註５）。鳥喰台遺跡は早期後半を中心とする遺跡であるが、一段の菱形浮線文を有する小形浅鉢形土器が単独出土している（註４）。この文様構成は氷式土器の中心をなすもので、群馬県千網谷戸遺跡・新潟県藤橋遺跡・長畑遺跡等から出土しており、鳥喰台遺跡出土例はこれらを模倣したものと思われ文様抽出は稚劣である。子和清水遺跡・房地遺跡・鳥喰台遺跡は近接したほぼ同じ時期の遺跡でありながら主体とする浮線網状文土器の文様構成は異なり、房地遺跡から子和清水遺跡への時間的流れが読みとれる。なお新堀遺跡は古墳時代を中心とする集落址であるが遺構外から浮線網状文土器が、蓑輪遺跡からは古墳時代の住居址覆土内から安行Ⅲｃ式土器および千網式土器に伴う撚糸文を有する粗製土器が出土している。

都川流域―千葉市の中央部を占める地域で、北から南へ流れる葭川・南から北へ流れる仁戸名川等の支流を含めて縄文時代中期から後期の大貝塚が数多く形成された地域である。葭川流域の五味ノ木遺跡・殿台貝塚・草刈場貝塚・台門貝塚・都川流域では矢作貝塚・和田前遺跡・加曽利貝塚・川井貝塚・仁戸名川流域では築地台貝塚・長谷部貝塚・清水作遺跡の各遺跡があげられる。このうち築地台貝塚からは安行Ⅲａ式期の住居址が、台門貝塚・加曽利貝塚からは安行Ⅲｂ式期の方形住居址が発見されている。台門貝塚は土取り工事の際に発見されたもので詳細は不明であるが、築地台貝塚では数少ない晩期の住居址が貝層外縁部から検出されている。8.2 m×7.6 m の円形を呈する拡張住居址で、住居址内からは石棒・石剣・独鈷石等が出土しており、晩期初頭

第1表　千葉市周辺の縄文時代晩期の遺跡地名表

No.	遺跡名	所在地	時期	遺構	備考	類型	文献
1	西門原	千葉市長作町西門原	中期・晩期（安行Ⅲb）			A_1－b	1
2	新堀	千葉市犢橋町	早期・前期・中期・後期・晩期（千網）			C_3	2
3	子和清水	千葉市三角町	早期・前期・中期・後期・晩期（前浦・千網）		土偶・独鈷石	B_3	1
4	犢橋	千葉市犢橋町草原	後期・晩期（安行Ⅲa・Ⅲb・大洞c_1）		土版（安行Ⅲa）	A_1－a	1·3·4·5·6·7·8
5	蓑輪	千葉市畑町	後期・晩期（安行Ⅲc・千網）			B_3	9
6	鳥喰台	千葉市宮野木町鳥喰台	早期・前期・中期・後期・晩期（千網）			C_3	1
7	房地	千葉市宮野木町房地	前期・中期・後期・晩期（前浦・千網）			B_3	1
8	園生	千葉市園生町長者山	後期・晩期（安行Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc・大洞c_1）			A_2－a	1·5·7·8·10·11
9	五味ノ木	千葉市萩台	前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲb）			A_1－b	12
10	殿台	千葉市殿台	中期・後期・晩期（安行Ⅲa・Ⅲb）			A_1－a	8·13
11	草刈場	千葉市貝塚町木戸作	中期・後期・晩期（安行Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc）			A_2－a	1·6·8
12	台門	千葉市貝塚町台門	中期・後期・晩期（安行Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc）	住居址（安行Ⅲb）		A_2－a	1·6·8
13	矢作	千葉市矢作町貝殻	早期・前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc・前浦）			A_2－a	1·8·14·15
14	和田前	千葉市加曽利町	前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲd・前浦）			A_1－a	16
15	加曽利	千葉市桜木町京願台	早期・前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc・前浦・大洞c_1）			A_1－a	1·6·7·8·11·17
16	新田山	千葉市坂月町山王	（弥生―須和田）				7
17	川井	千葉市川井町川井	後期・晩期（安行Ⅲa）	土壙		A_1－a	8·18
18	築地台	千葉市平山町築地台	中期・後期・晩期（安行Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc・前浦）	住居址（安行Ⅲa）	独鈷石・石棒・石剣	A_2－a	8·19
19	長谷部	千葉市平山町主理台	中期・後期・晩期				7·8
20	中野台	千葉市千葉寺町中野台	（弥生―須和田）				7
21	清水作	千葉市辺田町	後期・晩期（安行Ⅲa）			A_1－a	21
22	有吉	千葉市有吉町上赤塚	早期・前期・後期・晩期（千網）			C_3	22
23	小金沢	千葉市小金沢町堂前	前期・後期・晩期（安行Ⅲa）			A_1－a	1·7·8
24	御塚台	千葉市小金沢町	早期・前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲc）	住居址（安行Ⅲc）		B_2	20
25	大膳野北	千葉市大金沢町	早期・前期・中期・後期・晩期（千網・荒海）			C_3	23
26	六通	千葉市大金沢町六通	後期・晩期（安行Ⅲa）			A_1－a	1·6·7·8
27	六通神社南	千葉市大金沢町	中期・後期・晩期（安行Ⅲa）			A_1－a	20
28	金山	千葉市大金沢町金山	早期・晩期（安行Ⅲa）			A_1－a	7
29	文六第1	千葉市小食土町	後期・晩期・中期・晩期（千網）				

30	荒立	千葉市千城台四丁目	後期・晩期（安行Ⅲａ）			A_1－a	8
31	宇津志野原	千葉市大井戸町宇津志野原	早期・晩期				1
32	かるむみ	千葉市御殿町かるむみ	早期・晩期（千網）			C_3	
33	山田	千葉市野呂町山田	中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ）		土版（安行Ⅲｄ）	A_1－a	1・7・8・24・25
34	八反目台	千葉市野呂町八反目台	早期・中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ・前浦）			A_2－a	1・7・8・26
35	六反部	四街道市中台字六反歩	晩期（安行Ⅲｂ）			A_1－b	27
36	相ノ谷	四街道市山梨字相ノ谷	中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ）			A_1－a	27
37	御山	四街道市物井字御山	中期・晩期（安行Ⅲｃ・千網・荒海）	生活址・土壙墓	玉類	B_3	27・28・29
38	千代田	四街道市千代田	前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ・前浦）			A_2－a	30
39	池花南	四街道市内黒田	前期・後期・晩期（千網・荒海）須和田		石剣・玉類	C_3	29
40	後口	四街道市亀崎字後口	早期・前期・中期・後期・晩期（大洞Ａ）			C_3	27
41	坂戸念仏塚西	佐倉市坂戸念仏塚	中期・晩期（安行Ⅲｂ・前浦）			A_1－b	31
42	坂戸草刈堀込	佐倉市坂戸草刈堀込	後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ・前浦）		土版（安行Ⅲｃ）	A_2－a	31・32・33
43	吉見稲荷山	佐倉市吉見白幡	早期・前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲｂ）			A_1－b	31
44	吉見台	佐倉市吉見秋下	後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ・前浦）		住居址（安行Ⅲa～前浦）	A_2－a	31・34・35
45	岩名天神前	佐倉市岩名宮前	後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ・前浦・千網）			A_3－a	31・36
46	大崎台	佐倉市六崎大崎台	晩期（千網・荒海）	住居址（荒海）		C_3	37
47	太田宿	佐倉市太田宿	早期・中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・大洞Ｂ）			A_1－a	38
48	岩富上ノ袖東	佐倉市岩富上ノ袖	前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ・前浦）			A_2－a	31
49	岩富漆谷津	佐倉市岩富漆谷津	早期・前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ）			A_1－a	38
50	飯塚荒地台	佐倉市荒地台飯塚	中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・前浦）			A_2－a	31
51	木野木台畑	佐倉市木野木台畑	中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ）			A_2－a	31
52	神楽場	佐倉市下志津志津橋	中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ）			A_2－a	31・32
53	飯合作	佐倉市下志津飯合作	早期・前期・中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ）			A_1－a	31・32
54	井野長割	佐倉市井野長割	後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ）			A_2－a	31・32・39
55	佐山	八千代市佐山	中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ・前浦）			A_2－a	40
56	神野	八千代市神野築地	中期・後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ）			A_1－a	8
57	高津新山	八千代市高津堀込	前期・中期・後期・晩期（荒海）			C_3	
58	金堀台	船橋市豊富町神保新田桑橋台	後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ）			A_2－a	8・41
59	池谷津	船橋市小室	後期・晩期（安行Ⅲａ・Ⅲｂ）			A_1－a	8
60	下田台	千葉市大宮田下田台	後期・晩期（千網・荒海）			C_3	



第２図　千葉市周辺の縄文時代晩期の遺跡

	終了 / 開始		1	2	3	
			安行Ⅲa・Ⅲb	安行Ⅲc・Ⅲd・前浦	千網・荒海	
A	安行Ⅲa・Ⅲb	後期より継続	犢橋	園生		a
			殿台・川井	草刈場・台門・矢作・加曽利・築地台		
			小金沢・六通・六通神社南・金山			
			荒立・山田	八反目台		
			相ノ谷・太田宿・漆谷津	草刈堀込・吉見台・上ノ袖東・荒地台	天神前・千代田	
		安行Ⅲa・Ⅲb	西門原			b
			五味ノ木・清作			
			六反部・稲荷山			
B	安行Ⅲc・Ⅲd・前浦					
					子和清水・蓮輪・房地	
				和田前		
				御塚台		
					御山	
C	千網・荒海		（花見川・稲毛川流域）		新堀・鳥喰台	
			（都川流域）		有吉・大膳野北・文六第１	
			（村田川流域）			
			（鹿島川流域）		かるむみ	
			（鹿島川下流域）		後口・大崎台	

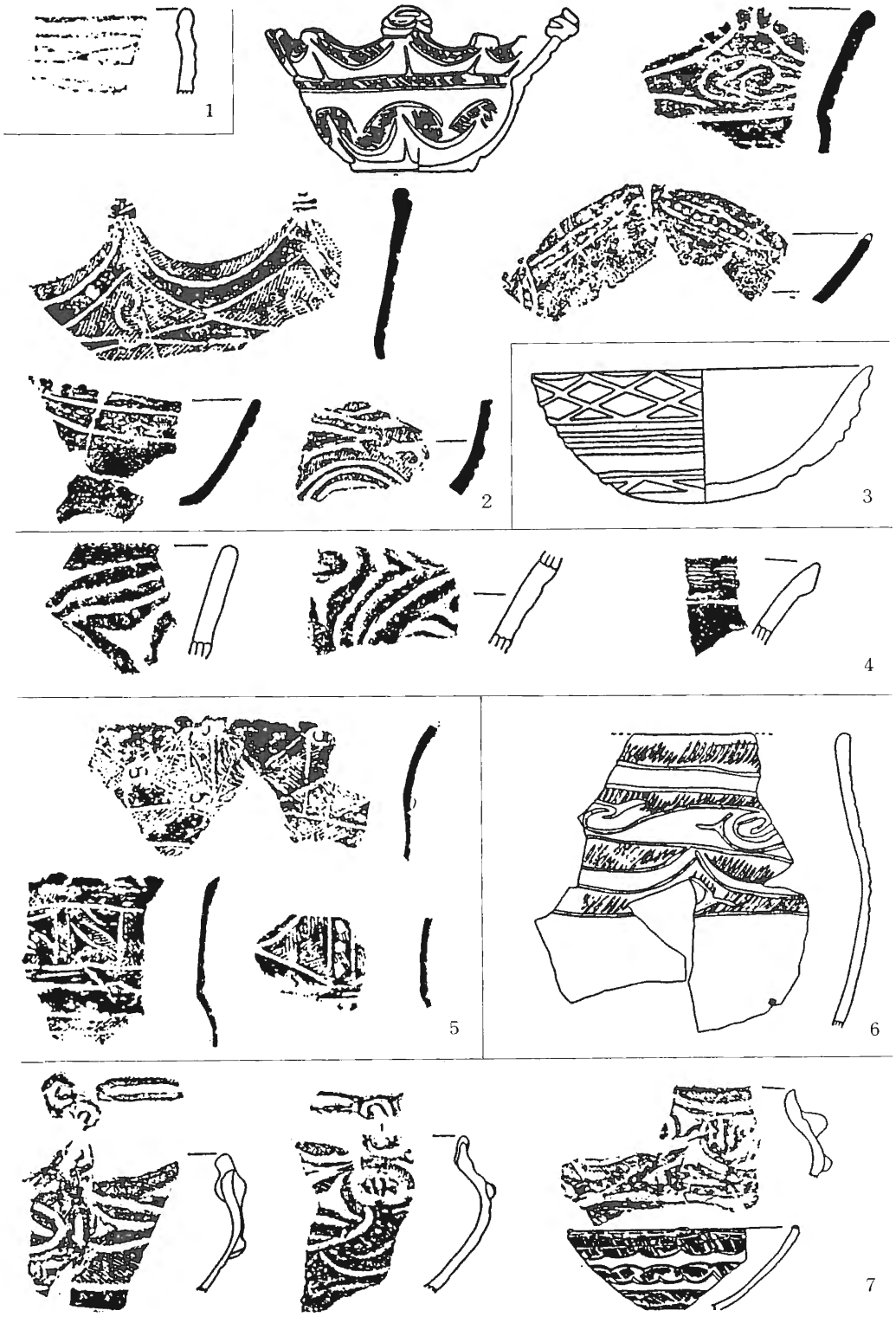
第２表　千葉市周辺の縄文時代晩期の遺跡・継続表

の石器組成を知る上でも重要である。殿台貝塚は後期から安行Ⅲｂ式期に形成されたもので後期後半の貝層はハマグリ・オキアサリ・キサゴを主体としてヤマトシジミを混じえており、採捕地が汽水域に変化していくことを良く表わしている。この他に加曽利貝塚・矢作貝塚からは前浦式期までの各遺物が出土しており、また良好な安行Ⅲｄ式土器・前浦式土器を出土している和田前遺跡は特筆される。

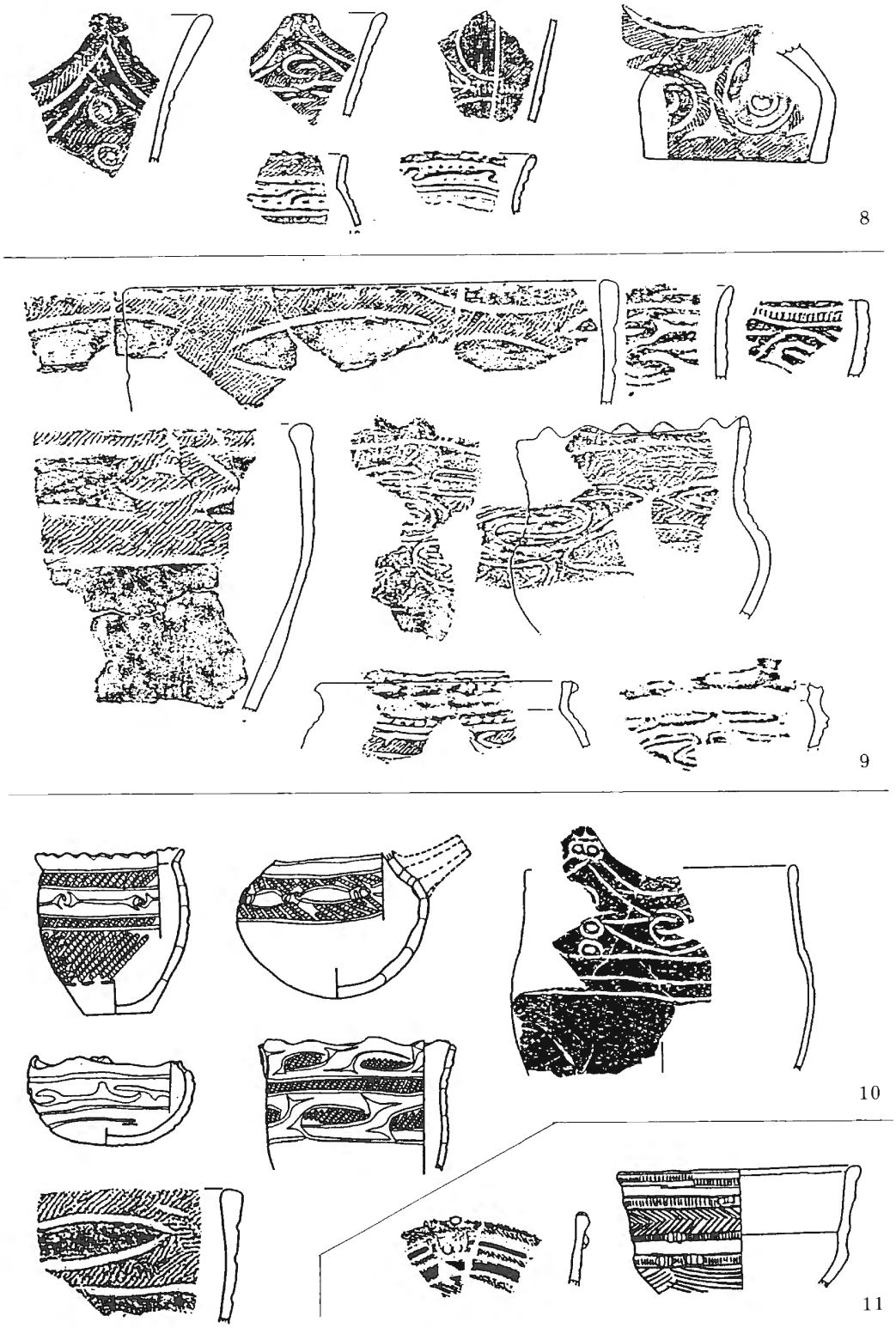
村田川流域―千葉市の南辺の地域で有吉貝塚・小金沢遺跡・御塚台遺跡・大膳野北遺跡・六通貝塚・六通神社南遺跡・六通辺田遺跡の各遺跡があげられる。近年の千葉東南部ニュータウン建設工事に伴う調査により幾つかの遺跡が調査されているがいずれも整理中で詳細は不明である。御塚台遺跡からは安行Ⅲｃ式期の良好な包含層と住居址が発見されている他、有吉貝塚・大膳野北遺跡からは千網式土器に伴う撚糸文の粗製土器が出土している。また最上流に位置する文六第１遺跡からも千網式土器が撚糸文の粗製土器と共に出土している（註５）。

鹿島川流域―千葉市の東側を占める地域で荒立貝塚・宇津志野原遺跡・かるむみ遺跡・野呂山田貝塚・八反目台貝塚の各遺跡が存在する。荒立貝塚・野呂山田貝塚・八反目台貝塚はいずれも後期の地点貝塚を伴う遺跡で、野呂山田貝塚では遺跡の中央部に、八反目台貝塚では北側に晩期前半の土器が集中する地点がみられるほか、野呂山田貝塚からは安行Ⅲｄ式期の土版が、八反目台貝塚からは千網式土器に伴うと思われる粗製土器が出土しており、いずれも晩期中葉および後半まで遺跡が継続している可能性がある。かるむみ遺跡からは折り返し口縁を有する撚糸文の粗製土器が出土している（註６）。これを下流の四街道市・佐倉市に目を向けると坂戸草刈掘込遺跡・千代田遺跡・吉見台遺跡をはじめとして約２０遺跡が発見されており、晩期の遺跡が集中し発掘調査も数多く行なわれている地域として今後注目すべき地域である。御山遺跡からは千網式期から荒海式期の生活址が住居址を含んで４単位確認されているほか、晩期のピット群が３群検出され土壙墓と思われる１基からは滑石製臼玉約３２０点が一括出土している。同遺跡からは荒海式土器に伴って樫王式土器に比定される条痕文土器も出土しており、資料の公表が待たれる（註７）。御山遺跡の近隣には晩期中葉までの遺物を多量に出土した千代田遺跡や、近年の調査で須和田式土器の包含層が発見された池花南遺跡、安行Ⅲｂ式期の直径１８ｍの大型住居址をはじめとして前浦式期までの住居址が検出されている吉見台遺跡が存在する。なおこれらの遺跡を載せる台地の対岸のには荒海式期の住居址を検出した大崎台遺跡が存在する。

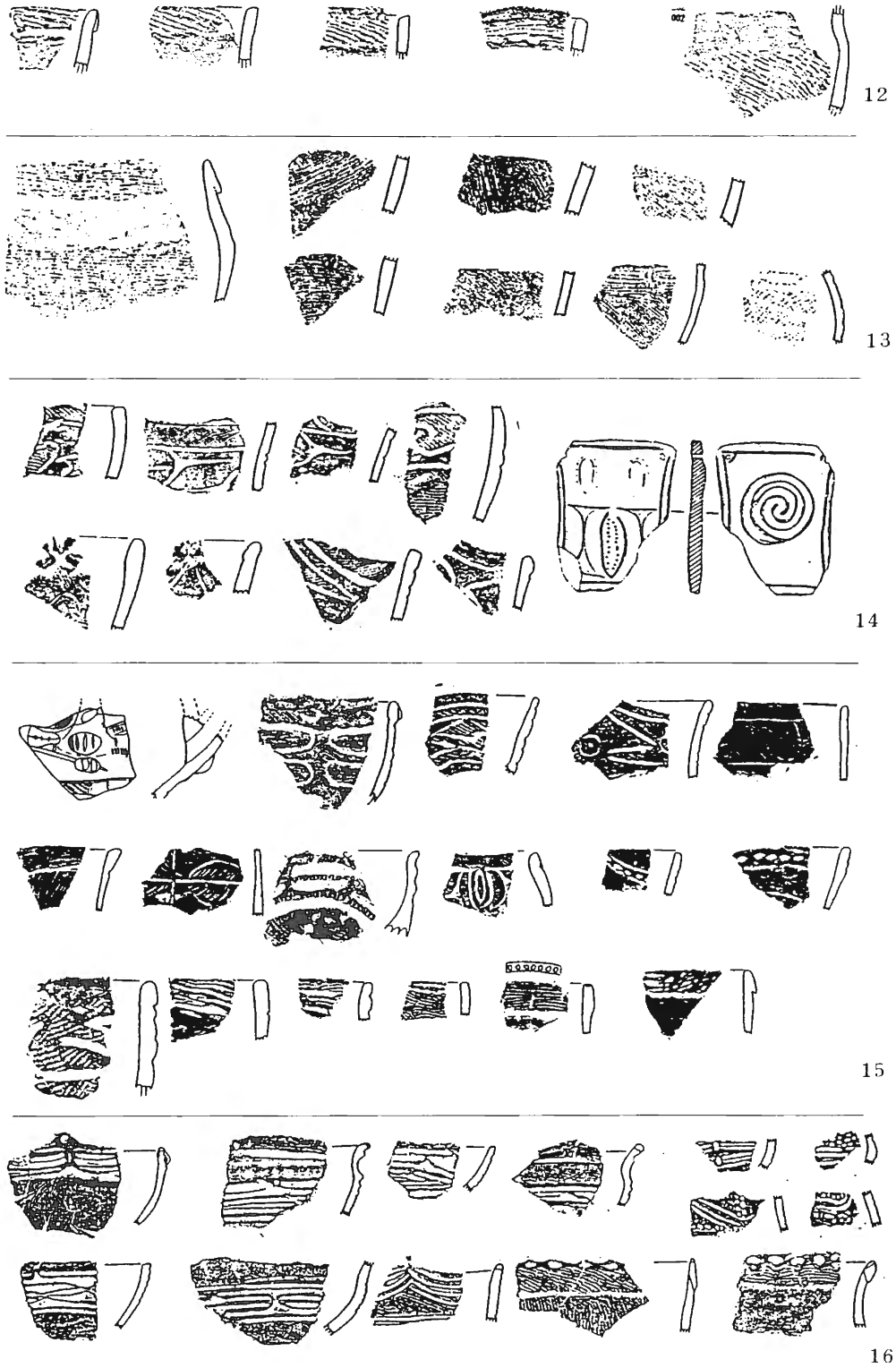
以上が千葉市周辺における縄文時代晩期の遺跡の概観であるが、この他に市原市西広貝塚・福増遺跡・八千代市高津新山遺跡等から晩期終末期の遺物が発見されている。西広貝塚からは前浦式期までの貝層が検出されており、高津新山遺跡では埋没谷付近より約５ｍの範囲で貝殻条痕文を有する粗製土器が出土し、それと共に粘土の散布が認められている（註８）。



第3図　千葉市周辺の縄文時代晩期の土器
1.　新堀遺跡　　2.　犢橋貝塚　　3.　鳥喰台遺跡　　4.　蓑輪遺跡
5.　園生貝塚　　6.　五味ノ木遺跡　7.　殿台貝塚



第4図　千葉市周辺の縄文時代晩期の土器(2)
8.　矢作貝塚　9.　和田前遺跡　10.　築地台貝塚　11.　清水作遺跡



第５図　千葉市周辺の縄文時代晩期の土器(3)

12.　有吉遺跡　　13.　大膳野北遺跡　14.　野呂山田貝塚
15.　八反目台貝塚　16.　大崎台遺跡

3. 千葉市周辺における縄文時代晩期の遺跡の動向

これまで千葉市周辺の晩期の遺跡の概略を述べてきたが、花見川・稲毛川流域・村田川下流域・鹿島川下流域に遺跡集中地区が認められる。これを遺跡の立地・継続性を中心に観ていきたい。なお遺跡の継続性については第２表のように９つの類型化が考えられる。花見川流域は晩期の各時期を網羅しており、千葉市周辺の特色を良く表わしている。後期の大貝塚に付随して晩期前半の包含層が発見されるA_1—ａタイプの犢橋貝塚およびA_2—ａタイプの園生貝塚から晩期前半の遺物を含まずに晩期中葉から後半の包含層が発見されるB_3タイプの房地遺跡・子和清水遺跡への交代がスムーズにみられる。房地遺跡・子和清水遺跡は共に支谷の最奥部の舌状に張り出した台地上に立地するという共通性を有しており、房地遺跡から子和清水遺跡へと時間的流れがみられることは前記した。なお子和清水遺跡の前浦式土器は断片的出土状態であり、晩期の居住時間は千網式期の後半 C_3タイプとみることができる。都川流域は B_2タイプの和田前遺跡を除く他は後期の貝塚に付随して晩期の包含層・住居址が形成されたものである。和田前遺跡は遺跡の交代が晩期中葉から始まっていることを表わす例である。村田川下流域ではB_2タイプの御塚台、C_3 タイプの有吉貝塚・大膳野北遺跡を除くといずれも後期の大集落から継続して営まれて安行Ⅲａ式期に集落を終了する。この中にあって B_2 タイプの御塚台遺跡から安行Ⅲｃ式期の住居址が検出されている例は注目される。鹿島川流域では、地点貝塚を有する後期の遺跡に付随して包含層が形成されるA_1—ａタイプ、A_2—ａタイプで占められる中・上流域に対して下流域はA_1—ａタイプ、A_2—ａタイプからB_3タイプの御山遺跡とC_3タイプの荒海式期の住居址が検出された大崎台遺跡への交代がみられる他、後期から晩期終末期まで営まれたA_3—ａ タイプの天神前遺跡・千代田遺跡がみられる。以上のように千葉市周辺においては後期終末に極立ってみられる遺跡の激減という傾向が晩期前半・中葉においてもみられるほか、晩期中葉から新たな遺跡が登場してくることになる（註９）。それらは各地で指摘されているような低地下の傾向はまだ示しておらず、水田比高１０～２０ｍの台地上という従来の遺跡観をそのまま踏襲しており、同一遺跡においては前期から後期にかけての住居址等の遺構が発見されている例が多い。これは低地まで調査の手がのびていないことにも起因していると思われるが、大崎台遺跡・御山遺跡の住居址の検出や子和清水遺跡における炉址状遺構の検出等をみても、台地上を居住空間として選んでいることが知られ、むしろ大崎台遺跡のように支谷開口部に立地する遺跡と子和清水遺跡・房地遺跡のように支谷最奥部に立地する２者に明確に分かれる点に問題が含まれていると思われる（註１０）。

次に遺物について簡単に触れておきたい。晩期前半の石器組成を表わす例としては築地台第３号住居址および加曽利南貝塚第１１区があげられ、終末期では現在整理中の子和清水遺跡をあげることができるが、従来より指摘されている安行Ⅲｃ式期における石鏃の大型化・多量化を示す遺跡は現在なく、子和清水遺跡においても従来の石器組成を踏襲し新しい要素の石器は発見さ

れていない。東海・中部・北関東地方においては晩期終末から弥生時代初頭にかけて打製石斧の多量化や石器組成の変化が指摘されているが（註１１）、千葉市内ではこのような現象はまだみられない。

近年の縄文時代晩期から弥生時代初頭にかけての研究の活性化は目を瞠るものがあり、千葉県下でも前記した縄文時代終末期の遺跡の発掘調査に加えて成田市郷部北遺跡群・下総町龍正院（大原野）貝塚等の当該期の遺跡の調査が行なわれ、県内資料による千網式・荒海式土器の分析もなされているが（註１２）、発掘調査された遺跡の多くが現在整理中で資料が公表されておらず、「関東地方において研究が進展したのは主として西関東であって、東関東、殊に房総半島を中心とする関東東南部が依然として空白であるという著しい地域的偏差が存在する」（註１３）との指摘もなされている。

おわりに

加曽利貝塚の周辺は急速に都市化が進んでおり表面採集も困難に近くなってきている。これに伴って発掘調査例も増し北貝塚北側および南貝塚西側・南側にも縄文時代中期の集落が展開していることが確かめられている。このような状況下で南貝塚西側にも小規模と思われるも晩期包含層の存在を示唆する今回の採集遺物は重要である。なお今回の資料は子和清水遺跡の整理用に用意していたものを短期間で纏めたもので充分な分析を加えずにいるが、これは子和清水遺跡の整理・報告を待って行ないたい。

今回の発表に際しては青木幸一・青沼道文・朝比奈竹男・飯島義雄・久保脇美朗・湖口淳一・庄司克・寺内博之・寺門義範・芳賀英一・平林彰・山本勇・渡辺昌宏の各氏および印旛郡市文化財センター・尖石考古博物館・日本考古学研究所の諸機関に資料の実見・提供等で便宜を計って頂いた。また豊田誠二氏・故高山定吉の両氏には共に表面採集を行ない資料の提供を頂いた。記して感謝申し上げる次第である。

（（財）千葉市文化財調査協会）

＜脚　註＞

1. 沈線の施文方法を観察すると姥山Ⅲ式土器にみられる枠状文を連結した後に安行Ⅲｂ式土器の入組文からの流れによるα状の沈線を施している。器形および文様にみられる頸部と胴部の三段の短沈線より埼玉県黒谷田端前遺跡包含層出土深鉢Ｃの流れをくむものと思われる。
2. （財）千葉県文化財センターによる旧㈱東洋プレハブ工場用地内の発掘調査により阿玉台式期の住居址が１軒発見されたほか、曽谷式期の埋甕が１例検出されている。また（財）千葉市文化財調査協会による確認調査でも中期の住居址が確認されているほか、今回晩期の土器を採集したＢ地点付近ではガス管埋設工事に伴って加曽利Ｅ式期の住居址２軒が調査されている。
3. 第２図３の完形土器を除く他の土器片がＭ地点第２層の純貝層より出土した遺物である。３

層以下の貝層中では安行Ⅱ式土器と安行Ⅲａ式土器が混在して発見されている（文献５）。

4. (財)千葉市文化財調査協会により昭和６０年発掘調査。

5. (財)千葉市文化財調査協会により昭和６０年発掘調査。浮線網状文土器が集中する地点と御代田式土器の出土地点は異なっている。湖口淳一・石川日出志氏教示。資料実見。

4. 鳥込東遺跡調査団により昭和４７年発掘調査。山本勇氏の御厚意により未発表資料を掲載させて頂いた。千葉市史では「鳥込東遺跡」と記載されている。

5. 千葉市土気地区遺跡調査会および(財)千葉市文化財調査協会により昭和５５年以降継続調査。寺門義範氏教示。

6. 青沼道文氏教示。資料実見。後日発表の機会を持ちたい。

7. （文献２７）では安行Ⅲｃ式期の包含層と記載されているが、（文献２９）では千網式土器・荒海式土器の出土が報じられている。なお土壙墓の検出を報じているのは（文献２８）で縄文晩期と記載されており細かい時期は明示していない。

8. 朝比奈竹男・久保脇美朗両氏の教示による。

9. 大宮台地においても晩期の遺跡が晩期中葉に断絶し、晩期後半の遺跡が新たに別の地点に占地され、それも千網式新段階以降で一時的な営みに終わることが指摘されている。

設楽博己　「関東地方の初期弥生土器」『東日本における黎明期の弥生土器ー第４回三県シンポジウム』　１９８３　群馬県考古学談話会

10. 埼玉県下の晩期終末期の遺跡でも水田との比高差が大きく湧水を有する谷頭部に立地し低地への進出は把えられない。このような立地の遺跡の存在が指摘できるのは波及期弥生の第２段階である四十坂遺跡の段階であるという。

吉川国男　「西関東における弥生文化の波及について」『埼玉県史研究』第９号　１９８２

11. 石川日出志　「関東における弥生時代のはじまり」『＜条痕文系土器＞文化をめぐる諸問題ー縄文から弥生ー発表要旨・資料篇Ⅰ』　１９８５　愛知県考古学談話会

12. 青木幸一　「荒海式土器の再検討(上)・(下)」『史館』第14号・第16号　1983　1984

鈴木正博　「「荒海式」生成論序説」『古代探叢Ⅱ』　１９８５

鈴木正博　「弥生式への長い途」『古代』第８０号　１９８５

13. （文献２９）

＜地名表引用文献＞

1. 千葉市教育委員会　「千葉市埋蔵文化財分布地図＜改訂版＞」　１９８４

2. 寺島　博　「新堀遺跡発掘調査報告」　１９８５　千葉市遺跡調査会

3. 向坂鋼二　「雨の犢橋貝塚」『ミクロリス』第１４号　１９５６　明治大学考古学会

4. 戸沢充則　「千葉市犢橋貝塚」『日本考古学年報１９９』　１９６４　日本考古学協会

5. 早川智明 「所謂安行式土器について－土器型式の再編成に関する予察－」『台地研究』第１６号 １９６５
6. 千葉市史編纂委員会 「千葉市史 原始・古代・中世編」 １９７４
7. 千葉市史編纂委員会 「千葉市史 史料編Ⅰ 原始・古代・中世」 １９７６
8. 千葉県教育委員会 「千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書」 １９８３
9. 加藤正信 「千葉市蓑輪遺跡」 １９８５ 千葉県文化財センター
10. 神尾明生 「千葉県千葉市園生貝塚」『日本考古学年報１０』 1963 日本考古学協会
神尾明生 「千葉県千葉市園生貝塚」『日本考古学年報１２』 1964 日本考古学協会
11. 鈴木公雄・林謙作編 「縄文土器大成４ 晩期」
12. 池田大助 「五味ノ木遺跡」『千葉都市モノレール関係埋蔵文化財報告書』 １９８６ 千葉県文化財センター
13. 阿部芳郎 「千葉市殿台貝塚出土の遺物について」『貝塚博物館紀要』第８号 １９８２ 加曽利貝塚博物館
14. 武田宗久 「下総国矢作貝塚発掘報告」『考古学』第９巻８号 １９３８ 東京考古学会
15. 清藤一順 「千葉市矢作貝塚」 １９８１ 千葉県文化財センター
16. 田川 良 「千葉市和田前遺跡出土の晩期縄文式土器」『奈和』特別号 １９８４
17. 滝口 宏編 「加曽利南貝塚」 １９６８ 加曽利貝塚博物館
滝口 宏編 「加曽利貝塚Ⅳ」 １９７１ 加曽利貝塚博物館
18. 千葉県教育庁文化課 「千葉県埋蔵文化財調査抄報－昭和５４年度－」 １９８１
19. 折原 繁他 「千葉市築地台貝塚・平山古墳」 １９７８ 千葉県文化財センター
20. 千葉県教育庁文化課 「千葉県埋蔵文化財調査抄報－昭和５８年度－」 １９８５
21. 杉山晋作他 「千葉市奈木台・藤沢・清水作遺跡」 １９７９ 千葉県文化財センター
22. 種田斉吾 「千葉東南部ニュータウン５－有吉遺跡(第２次)－」 １９７８ 千葉県文化財センター
23. 清水一順他 「千葉東南部ニュータウン１６－大膳野北遺跡－」 １９８５ 千葉県文化財センター
24. 米田耕之助 「千葉県野呂奥新田出土の土偶・土版」『立正考古』第２６号 １９６８
25. 田中英世 「千葉市野呂山田貝塚出土の舟形土器－鹿島川流域の縄文時代遺跡(2)－」『貝塚博物館紀要』第１２号 １９８５ 加曽利貝塚博物館
26. 田中英世 「鹿島川流域の縄文時代遺跡－千葉市八反目台貝塚」『貝塚博物館紀要』第１１号 １９８４ 加曽利貝塚博物館
27. 四街道市教育委員会 「千葉県四街道市埋蔵文化財地図」 １９８２
28. 千葉県教育庁文化課 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－昭和５９年度－」 １９８４

29. 渡辺修一　「関東地方における弥生時代中期前半の地域相」『研究紀要』１０　１９８６　千葉県文化財センター
30. 宮入和博他　「千代田遺跡」　１９７２　四街道町千代田遺跡調査団
31. 佐倉市教育委員会　「千葉県佐倉市埋蔵文化財分布地図」　１９８４
32. 柿沼修平　「佐倉市に於ける縄文時代後・晩期の遺跡」『奈和』第１４号　１９７５
33. 高橋建一　「千葉県佐倉市坂戸草刈堀込遺跡出土の遺物」『奈和』第２２号　１９８４
34. 近森正・山岸良二　「佐倉市吉見台遺跡調査概要Ⅱ」　１９８３　佐倉市遺跡調査会
35. 菅谷通保　「竪穴住居の型式学的研究ー縄文時代後・晩期の諸問題ー」『奈和』第２３号　１９８５
36. 杉原荘介・大塚初重他　「千葉県天神前遺跡における晩期縄文式土器」『駿台史学』第１５号　１９６４
杉原荘介・大塚初重　「千葉県天神前における弥生時代中期の墓址群」『明治大学文学部研究報告　考古学』第４冊　１９７４
37. 青木幸一他　「大崎台遺跡発掘調査概報」　１９８４　日本考古学研究所
38. 佐倉市教育委員会　「岩富漆谷津・太田宿」　１９８３
39. 清水潤三・鈴木公雄　「井野長割遺跡概要」　１９７４　佐倉市教育委員会
40. 千葉県文化財センター　「千葉県埋蔵文化財分布地図(1)ー東葛飾・印旛地区ー」　１９８５
41. 滝口　宏編　「印旛・手賀ー印旛手賀沼周辺埋蔵文化財調査ー」　１９６１
高橋　凞他　「金堀台貝塚の再検討」『船橋考古』第４・５号　１９７５

（追記）

脱稿後、石川日出志氏により子和清水遺跡・房地遺跡の資料を実見して頂き、子和清水遺跡から野沢Ⅰ式に並行する筒形土器が、房地遺跡から御代田Ⅰ式に並行する深鉢形土器が出土しているとの指摘を受け、「千葉市大宮町東五郎遺跡発掘調査報告書」（対島郁夫他　１９７７）に晩期資料の掲載があるとの御教示を得た。報文第６図の下田台遺跡出土資料中の２６～３４と思われ、２６の沈線文を伴う刺突文が荒海式土器で、２９～３１はこれに伴う粗製土器の可能性があるが資料未見のため地名表のみに追記した。

また「四街道市池花南遺跡調査概要」（千葉県文化財センター職員研修会資料　１９８６）に接した。それによれば子和清水遺跡に並行かやや古い浮線網状文が出土している。須和田式土器も出土しているものの荒海式土器は少ないという。晩期終末の遺跡が単期間に占地変化を行うことは印旛沼周辺でも指摘されている。（喜田圭介　「利根川下流域および印旛沼周辺における縄文時代晩期後半の様相」『研究紀要１』印旛郡市文化財センター　１９８６）。

千葉市内出土の浮線網状土器の変遷は和田前遺跡→房地遺跡→子和清水遺跡とたどれる。いずれにしても全県規模の資料集成が望まれる。